

平成26年3月 経営協議会議事録

I. 日 時 平成26年3月26日(水) 14時00分～16時30分

II. 場 所 けやき会館レセプションホール(3階)

III. 出席者 齋藤学長、赤田、有馬、犬養、井上、加賀見、黒木、桜田、島田、舩橋、山本、長澤、徳久、嶋津、池田、堀、北村、木庭各委員
(欠席：佐久間、宮崎各委員)

ワザハ- 来栖監事

IV. 前回経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項(○：学外委員、◎：学内委員)

1. 中期計画の変更について

学長から、中期計画の変更について審議願いたい旨提案があった後、山本理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

○ 文部科学省が出す予算に応じて中期目標を変えてしまうのはどうか。
完全に縛られている印象を受けてしまう。

◎ 大学の自主性が制限されている感は否めない。

◎ 文部科学省のCOC関係補助金について、文言の規制はかなり厳しいがうまく咀嚼して反映することになっている。国立大学法人法違反の指摘も行った。

2. 平成26年度計画(案)について

学長から、平成26年度計画(案)について審議願いたい旨提案があった後、山本理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

○ 地域社会、自治体との連携は具体的にどんなイメージなのか。

◎ COCの申請書類が、自治体と大学がいかに連携できるかということだった。
実際には千葉市などと、知の共有、高齢化、自治体が抱える問題などを話し合い、パイプを太くすることで合意している。

○ それぞれの自治体に地域振興策を提案するような流れも出てくるのか。

◎ 各自治体はすべての部局に大学との連携アイデアを出すように指示しているので、期待している。

○ 人事給与システムの弾力化、適切な業績評価制度の提示、年俸制の導入とあるが、具体策を検討しているのか。

◎ 年俸制の導入について、短期の予算は用意されているが、その後の保証はない。人事給与は判断を誤ると、将来にわたって負担が増えるので、慎重が必要。

◎ 実際、25年度末に亥鼻関係の活性化で大型予算を獲得したが、この中には、

すでに人事給与システムの変更も盛り込んでいる。年棒制については、継承職員の退職金問題もあり、見えない部分もあるが、外国人研究員や若手研究員については、計画に乗せて取り組んでいく。

- 年棒制の実施はこれからなのか。
- ◎ 有期雇用という観点ではすでに実施している。今後、無期雇用などへどのように拡大するかが課題になっている。
- 年棒制は、業績評価とのセットが求められるが、大学の職種は多岐にわたるので簡単ではない。大変だと思うが実行してほしい。

3. 国立大学法人千葉大学の組織に関する規則等の一部改正（案）について

学長から、国立大学法人千葉大学の組織に関する規則の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後、嶋津理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

- 法医学は県警や県の業務に全面的に協力しているのに、サポートがなく、待遇も良くない。センター開設を機に県に働きかけるべき。
- ◎ 岩瀬教授のアピールによって、かなり改善している。
- ◎ CT スキャンの導入や警察庁からの寄付を受けるなど、積極的におこなった結果、法医学教室は人が増えてきている。
- 解剖室の整備など、県がお金を出すように交渉すべき。
- ◎ まさにそうしてセンターを拡大しようとしている。
- 法学部の人はいらないのか。
- ◎ すでに専門法務の教員が入っている。
- 超高齢化社会の定義とは。
- ◎ 社会全体で21%が65歳を超えると超高齢化社会。日本は今、25%。

4. 平成26年度学内予算配分（案）について

学長から、平成26年度学内予算配分（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

- 消費税分が自動的に削除されるなどということが、そのまま通ってしまうのか。
- ◎ 大学の配分額の中に盛り込まれてる形で措置されている。ただし、袋予算と称する政策経費については、大学として取りに行かなければいけない仕組みになっている。
- 運営費交付金が331億円（3.1%）増とあるが、これが消費税分ということなのか。
- ◎ 明確にそういうことではない。331億円とは、平成25年末で執行する給与臨時特例法分の当然増629億円から復興関連事業法の当然減324億円が相殺された金額。単純に消費税3%分が措置されたとしても、プロジェクト経費を含めたものに食い込んでしまっている。
- 消費税の影響で、病院収入も減になる。
- ◎ 影響はある。診療報酬全体で加味されるとのことだが、学内予算の配分には

工夫が必要。結局は袋予算を取りに行くことが重要になってくる。

5. 平成25年度資金運用実績報告並びに平成26年度資金運用方針（案）及び平成26年度資金運用計画（案）について

学長から、平成25年度資金運用実績報告並びに平成26年度資金運用方針（案）及び平成26年度資金運用計画（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

- 資金運用計画にある長期運用額19億円とは。
- ◎ 10年債を中心にした運用で、今後3億円が追加されて19億円となる。いきなりではない。

6. 国立大学法人千葉大学における授業料その他の費用に関する規程の一部改正（案）について

学長から、国立大学法人千葉大学における授業料その他の費用に関する規程の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

7. 国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）について

学長から、国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後、池田理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

- 配偶者同行とはどういうものか。
- ◎ 千葉大学の職員が配偶者として同行する場合の休業のこと。現状、職員の配偶者が海外に赴任した場合は、退職してしまうことが多いが、それを休業扱いにして配慮しようという趣旨。
- 海外の学会から教員に招待状が来た場合、和訳して事務に出すのか。
- ◎ 英語力のある職員を増やしているが、契約関連や専門的なことまでは厳しい。
- 今までは、教員が時間をかけて訳していた。
- ◎ 今は事務で対応できることが多くなっているが、協定や専門用語など、部局によっては、教員にお願いしているところもある。
- 海外への学会出張の際、次の日に帰ってこない旅費が出せないような例がある。千葉大学はどうか。
- ◎ 出張の目的に照らして、柔軟に運用している。相当厳しかった時代もあったが、現在は紋切型ではなく、締め上げるような状態ではない。

8. 千葉大学学則等の一部改正（案）について

学長から、千葉大学学則等の一部改正（案）について審議願いたい旨提案があった後、長澤理事から資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果、承認された。

- 現状飛び入学は4月からだが、それを9月に行うメリットは。
- ◎ 高校の課程を夏休みまで履修できることと、進路についての固まった考えが

できるのが、高校3年の夏休みであることから、メリットが大きいと判断した。

- 卒業するのは3月なのか。
- ◎ 秋卒業を原則として、すでに薬学部では制度化している。また、9月入学の場合、10月までの1か月間で準備をして、スムーズに合流できるメリットもある。
- 飛び入学は9月に一本化した方が良いのでは。
- ◎ 今は4月入学なので、将来の課題としたい。
- 博士論文研究基礎力審査が必要になった理由は何か。あと、先進分野に関する試験は筆記なのか、口述なのか。
- ◎ 修士課程については、修士論文が必須なのかどうか議論が続いている。審査は筆記試験と口頭試問となるが、実際には当該研究会に任せることになる。
- どこでPhDを取得したのか、MAをスキップしているかなどは重視される。これは、優秀な人にはさっさと取らせようということか。
- ◎ そう思うが、早く取らせようという流れには抵抗がある。
- 非常に難しいところに着手したと感じている。加速せざるを得ないが、PhDというのは大変なものだということは認識してほしい。
- 学位審査には、指導教員も入るのか。
- ◎ 医学、薬学は主査は審査員になれないことにしている。
- ◎ 文学部については、指導教員以外にはまったくわからないような分野もある。そのため学外委員も入れながら、指導教員も入っている。工学部については、指導教員も一般の委員にはなれる。
- 5年一貫制博士課程の早期修了が3年となっているのは、外国人が短期間でPhDを取れるように配慮したものなのか。
- ◎ 優秀な者には、早く学位を与えてチャンスを広げるといふ、通常の大学院の早期修了要件制度の延長線上にある。
- レポートのコピペ問題について、解析するソフトは導入しているのか。
- ◎ ソフトの導入は予定しているが、学部レベルからレポートの書き方の教育を徹底しようとしている。

VI. 報告事項

1. 教育研究組織の設置について

山本理事から、教育研究組織の設置について、資料に基づき報告があった。

2. 平成25年度補正予算（第1号）について

池田理事から、平成25年度補正予算（第1号）について、資料に基づき報告があった。

3. 平成26年度政府予算（案）について

池田理事から、平成26年度政府予算（案）について、資料に基づき報告があった。

- 学長リーダーシップは何を一番重視して評価されるのか。
- ◎ 大学改革の取り組み状況を見られると思われる。

4. 平成24年度決算剰余金について

池田事から、平成24年度決算剰余金について、資料に基づき報告があった。

- 剰余金の承認は、もっと額を増やせなかったのか。
- ◎ 前年は20億円くらい承認されたが、残し過ぎると問題視される。将来計画に関わるものは、もっと柔軟に積み立てたのだが。
- 基金化できれば一番良い。
- ◎ 基金となると、予算の付け替えが必要になるので、実際は難しい。

5. 平成26年度個別学力検査等実施状況について

長澤理事から、平成26年度個別学力検査等実施状況について、資料に基づき報告があった。

- 2倍を割っている学科が2つあるが。
- ◎ 法政経学部は受験に対するテクニック的なものの影響。工学部は学部全体ではかなり上がっているが、映像科学科は昨年の反動で下がってしまった。
- 映像科学科と情報映像学科の区別が難しく不利になるのでは。
- ◎ 画像という名前が付いているため、混乱を来している。
- 法政経学科と法学科は、募集人員と合格者数の差が大きい。
- ◎ 前年度の状況を勘案して決めている。

6. 平成26年3月新卒者就職内定状況について

長澤理事から、平成26年3月新卒者就職内定状況について、資料に基づき報告があった。

7. 新理事・新監事・新副学長及び千葉大学新運営組織（案）について

徳久理事から、新理事・新監事・新副学長及び千葉大学新運営組織（案）について、資料に基づき報告があった。

- 将来構想会議は常設なのか。
- ◎ 月に1回は開催しようとしている。
- 病院長は理事に入っているのか。
- ◎ 病院長は副学長にしている。
- ◎ 大学運営会議というミーティングを週に2回行い、情報をシェアしようと考えている。

8. その他

学長から、委員全体に対し、謝辞が述べられ、さらに再任される委員にお礼が述べられた。

以上